

67
268

寶塚温泉案内

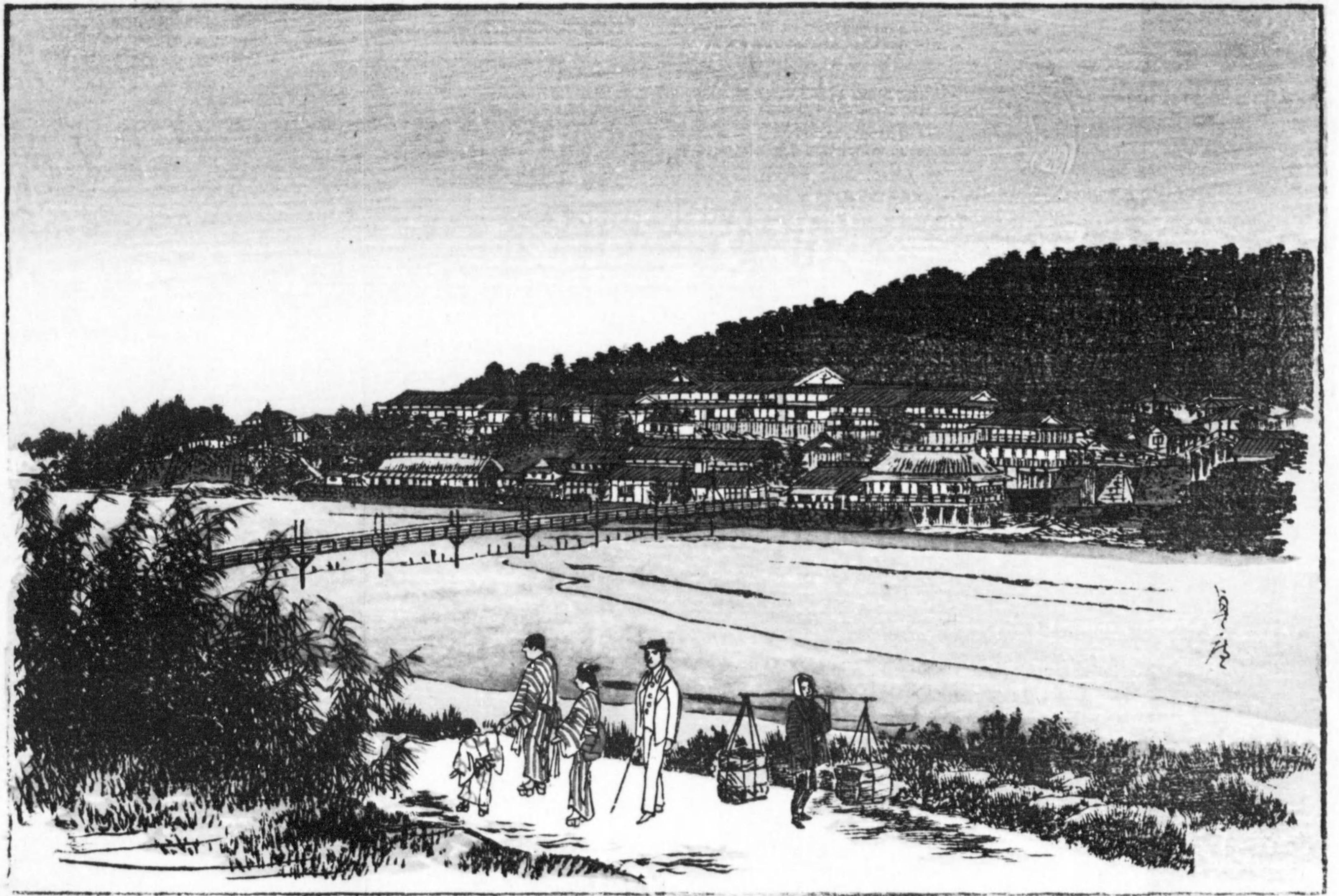


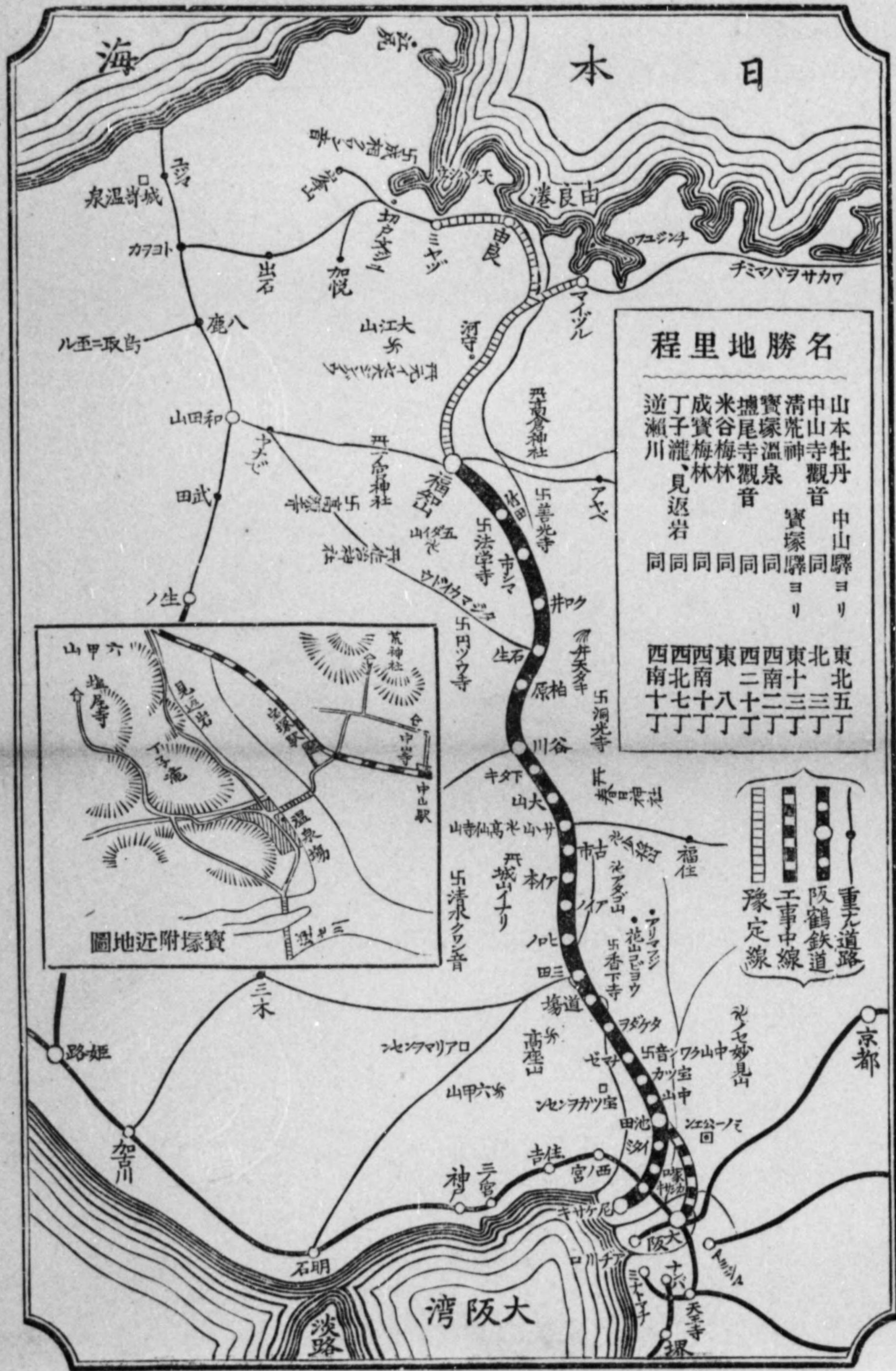
身之解

加藤紫芳編
三谷貞廣畫

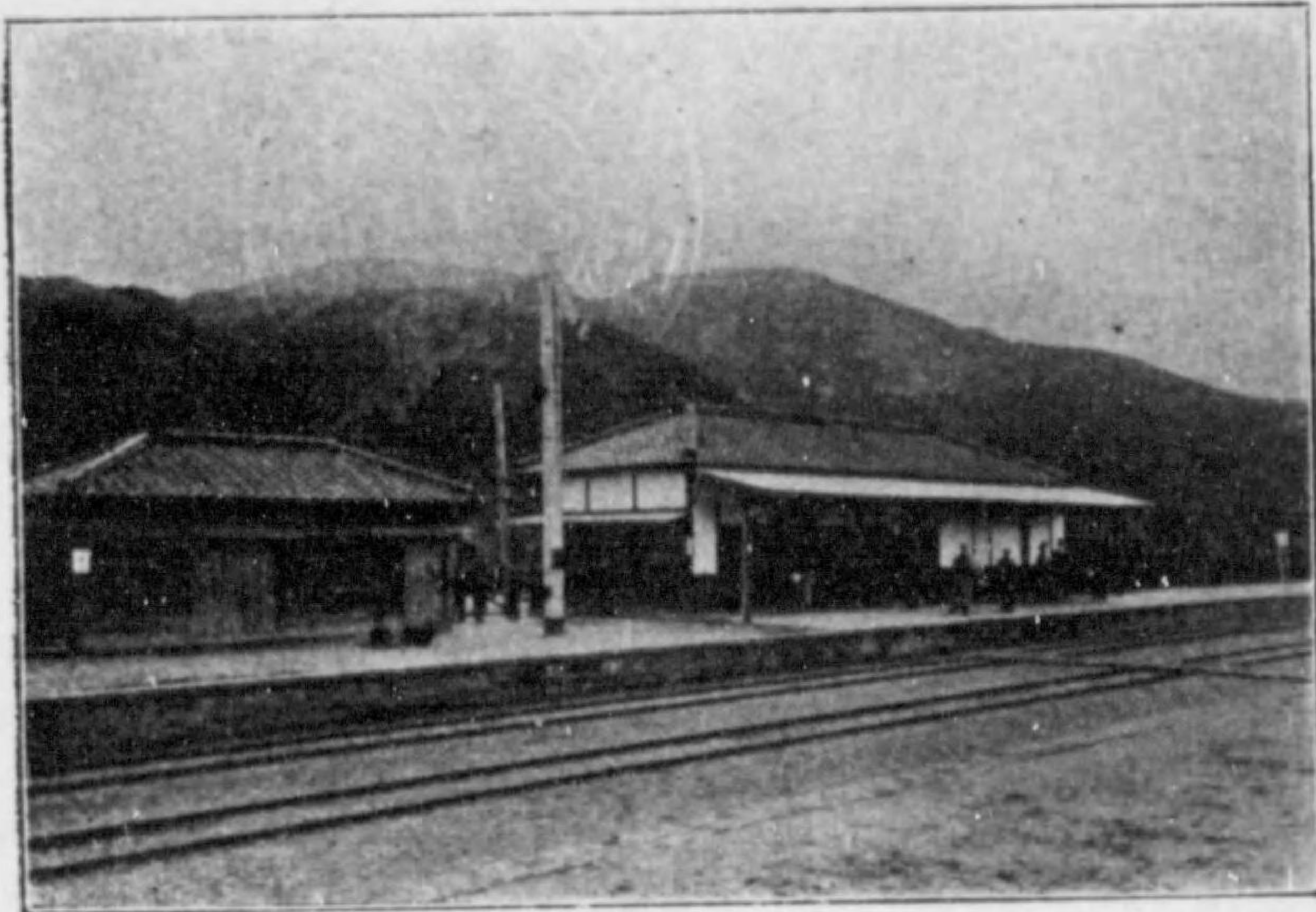
寶塚温泉案内

矢島誠進堂發行





舞鶴聯絡汽船ハ下リ京都發午前八時三十分、上リ福知山發後二時(寶塚驛發午前十時三十五分上リ午後九時五分)急行列車ニ接續運航シ
 福知山ヨリ舞鶴ニ三時間、宮津へ五時間ニテ達スベシ▲舞鶴ヨリ伯因但行定期汽船アリ▲福知山ヨリ舞鶴ト宮津へ馬車アリ人力車アリ
 道路平坦ニシテ舞鶴へハ四時間以内宮津へハ六時間ニテ達スベシ、日本三景ノ一ナル天ノ橋立、元伊勢、成相觀音等皆此道筋ニアリ名所
 舊跡ノ見ルベキモノ頗ル多ク四時ノ旅行ニ最モ宜ロシ▲大阪、神戸、三ノ宮ヨリ寶塚、生瀬、武田尾、三田へ土曜日ト日曜日ト祭日祝日ニ
 限リ割引往復切符ヲ發賣ス通州期限ハ三日間▲商用及ビ通勤又ハ通學ノ爲メ社線内一定ノ區間往復スル方ノ便利ヲ計リ、大割引定期乘
 車券、學生定期乘車券、回数乘車券ヲ發賣ス



寶塚驛 Takaradzuka station.



寶來橋 Hoorai-bashi.

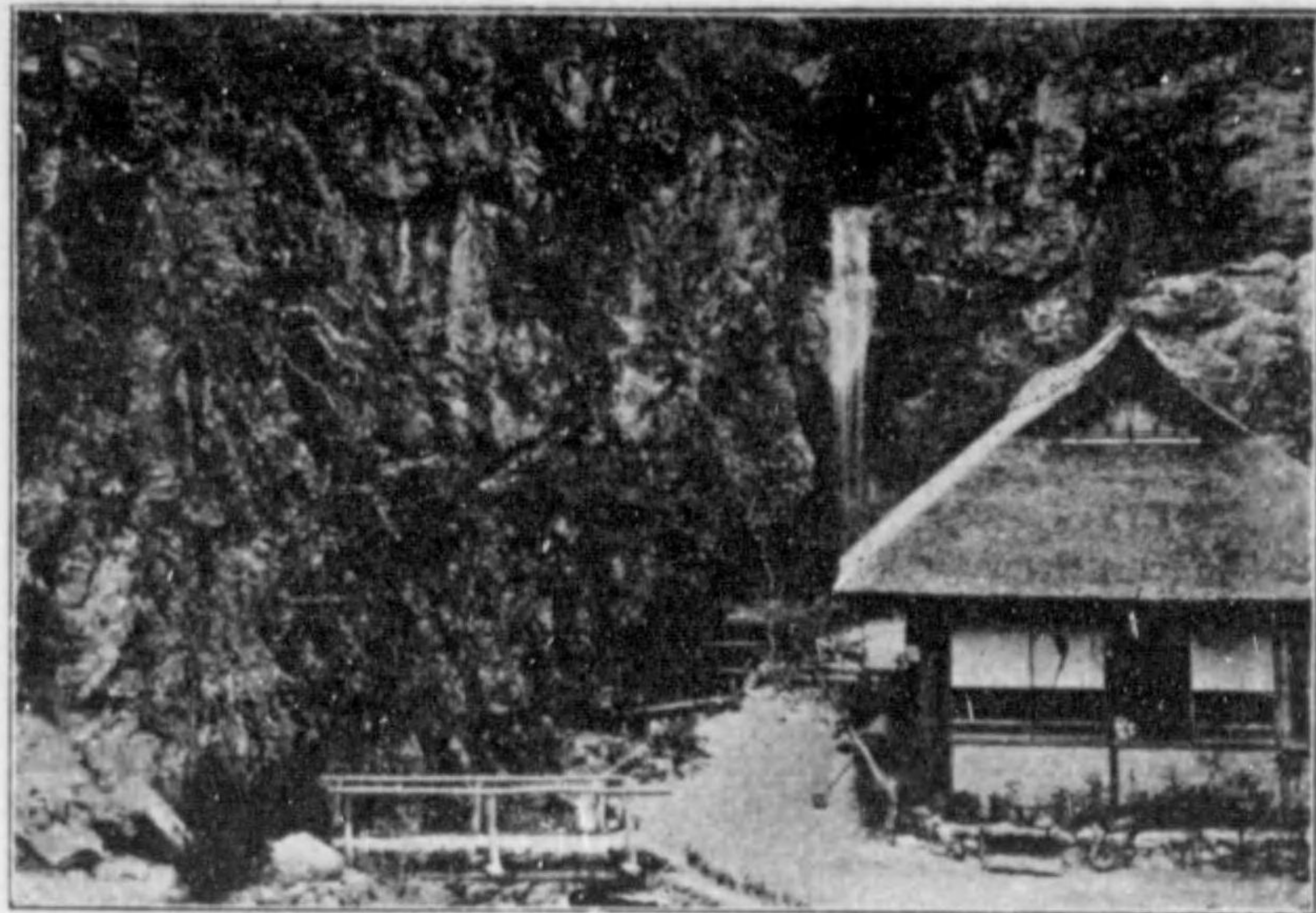


温泉場 Onsenba.

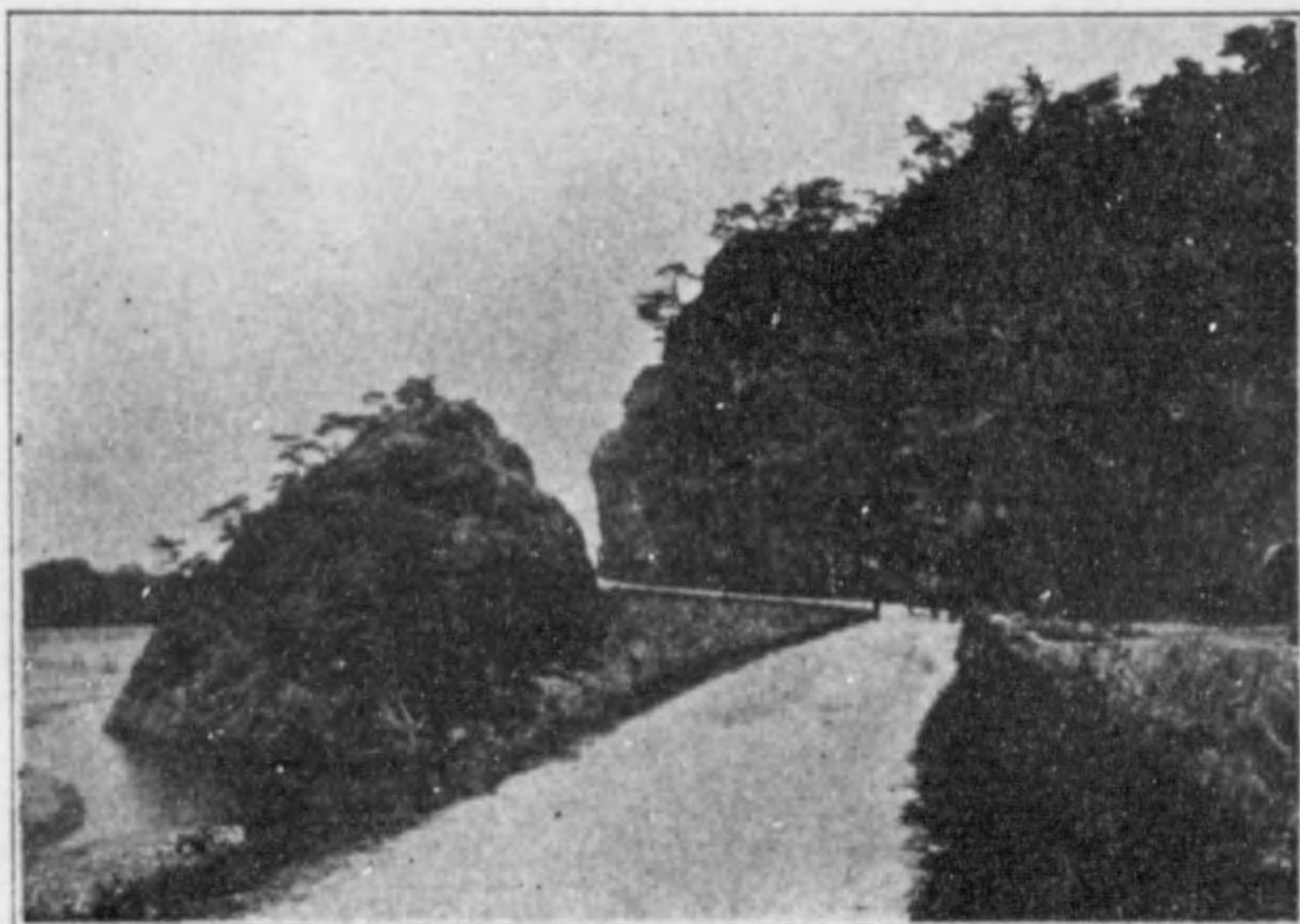


逆瀬川 Sakase-gawa.





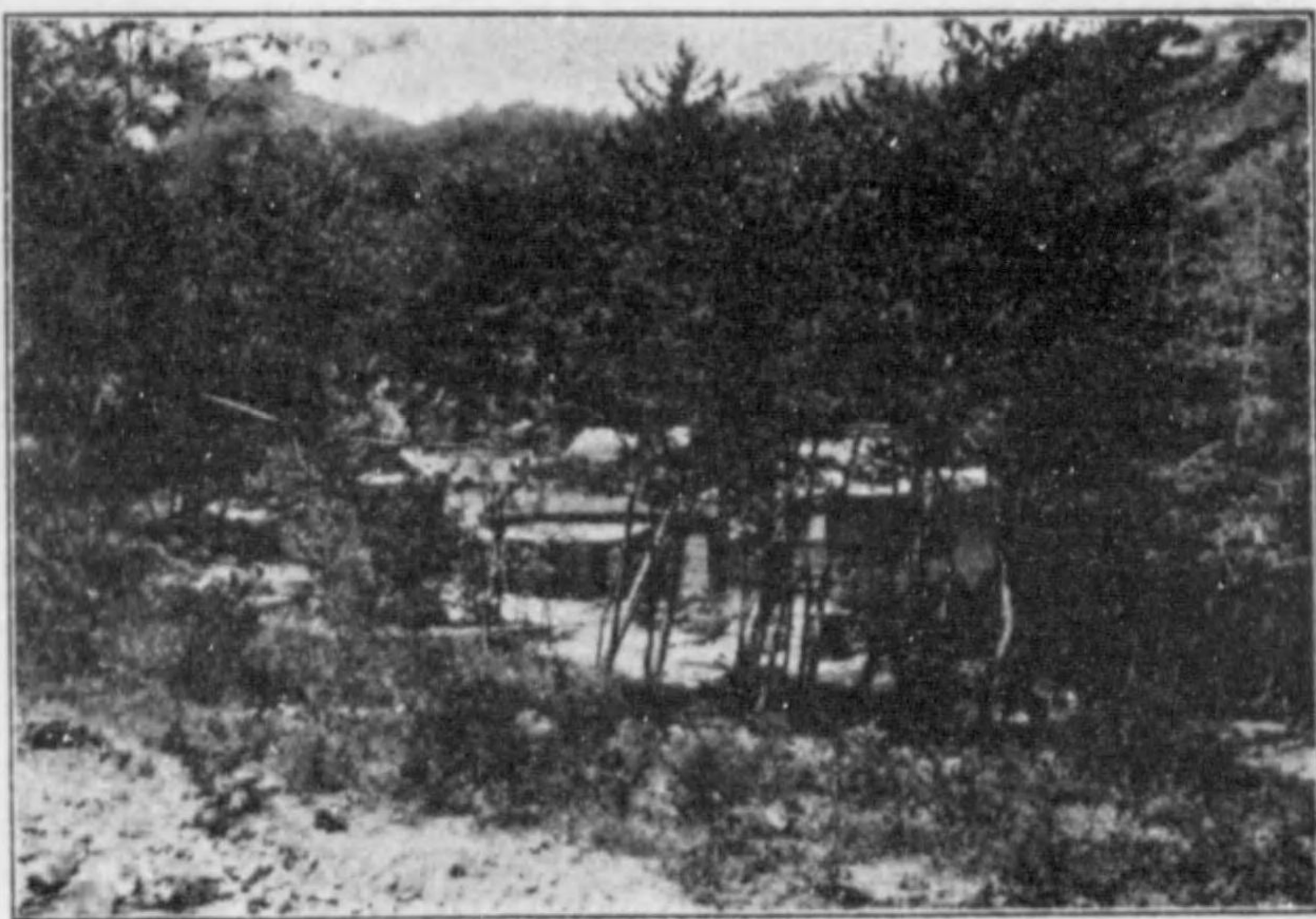
丁子瀧 Choshigataki.



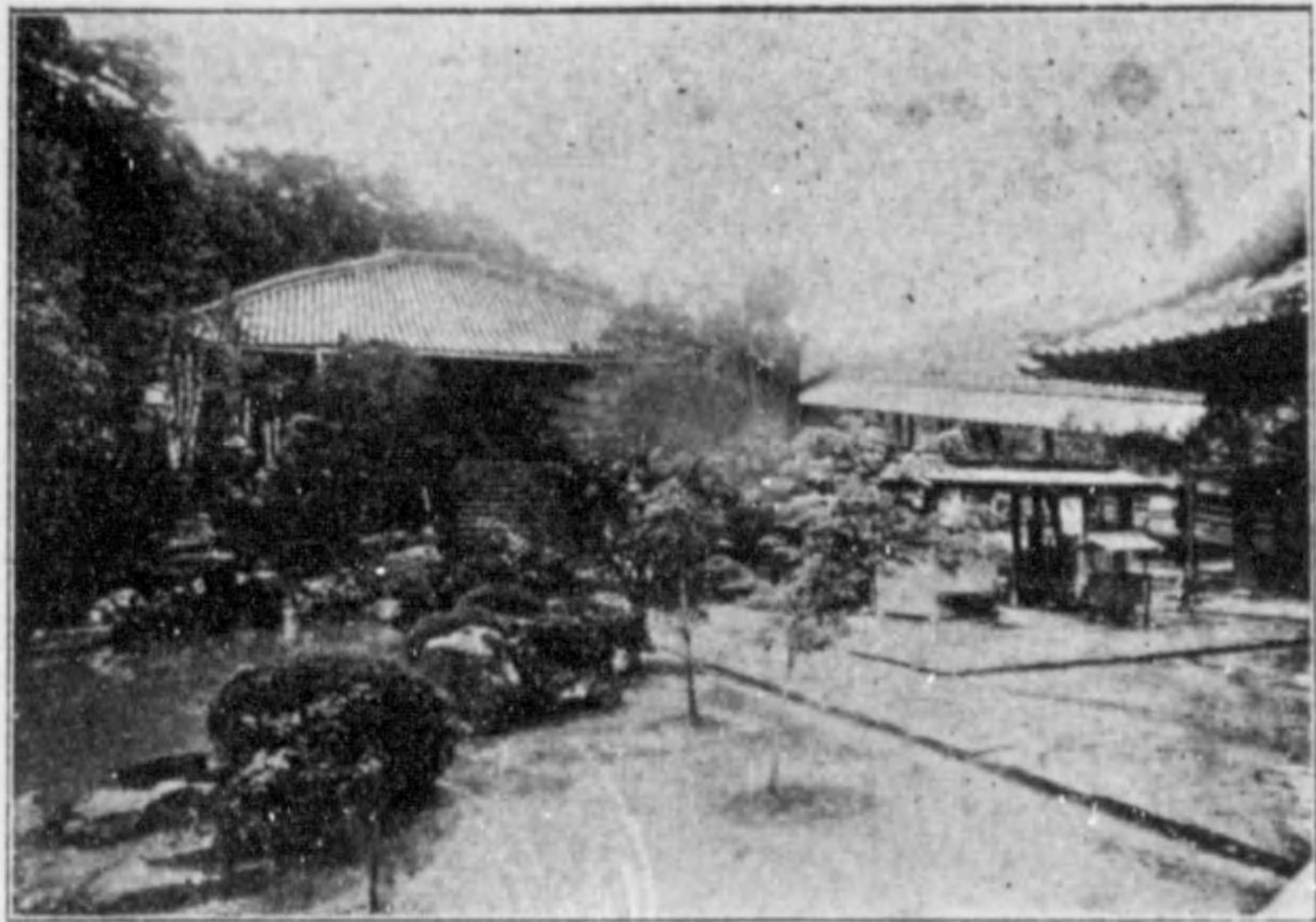
見返岩 Mikaeri-iwa.



鹽尾寺 Yenbi-ji.



御茶所 Ochiasho.



清 澄 寺 Seisho-ji.



中 山 寺 Nakayama-dera.

寶塚温泉案内

寶塚温泉の由来



寶塚は六甲山東面の麓武庫川の南岸にある一小市街にて
攝州武庫郡良元村大字伊子志の内にあり西の宮より生瀬
に通ずる縣道其中を縦貫せり攝津名所圖繪に塩の湯は伊
子志の山下にありて塩水涌出す之を汲み温湯として浴す
る時は能痼疾を治すとあれども更に其由来を詳かにせず
村民はたゞ塩ン出とのみ稱へ來りていつの頃誰の發見せ
しものなるやを知る者なし然るに六甲山塩尾寺に『御供

紫芳



水の由來』といふものありて、文中に温泉の由來を記せり
其文に據れば、昔、足利將軍義晴治世の頃、一人の貧女ありて
當山の觀世音を深く信じ、毎月參詣して信心更に怠りな
りしが、前世の宿業にや、其齡五十歳の頃、身に惡瘡を發して
醫藥も其力なく、身心を苦しむる事甚だしければ、貧女は頻
りに觀世音を怨み、年頃信仰したる効なきを嘆ちぬ。然るに
一夜、一人の僧夢枕に立ちて、其方常に余を信する効なく、其
身に惡瘡の發したるを怨めど、是全く宿業の致す處にして、
何んとも詮方なし。其仔細は、汝の前世富貴にして、一人の下
女を召使ひたるに、汝の心慳貪にして、其下女を打擲し、邪見

の扱ひをしたる報にて、今此惡瘡を發せしなり。されど汝年
頃我を念ずる心切なれば、余今汝に靈水を與ふべし。湯に沸
して其身を温めよ。一度此靈水に浴する時は、惡瘡即座に平
癒する事疑ひなし。其靈水は鳩が淵の川下、大柳の下を堀る
べしと、いとも有難き御告を蒙りぬ。貧女は悦びて海傳云
る僧と共に、早速鳩が淵に趣きて大柳の下を堀りたるに、果
して靈水涌出て、其味塩よりも鹹ゆかりき。貧女は之を汲み
て觀世音の教への如く、湯に沸して浴したるに、惡瘡忽ち癒
て痕なきに至りしと、なん按ずるに此事の信疑は姑く措き
こゝに鑛泉の涌出たる事は最古く、村民等の汲みて浴用に

供せしは事實なるべし、而して右の文中にある鳩が淵は寶塚より二三丁上にして、今の温泉場は丁度鳩が淵の下に該り、こゝに昔は大柳のありしものなるべし。

寶塚温泉場の沿革

寶塚温泉の世に知られたるは極めて新しく、昔はこゝに鑛泉の涌出る事をも知る者少く、僅に村民等の汲取りて浴用に供するに過ぎざりしを、明治十八年二月、始めてこゝに鑛泉の涌出る事を發見したる者ありて、兵庫縣及び大阪地方の有志者に謀り保生會社といふを設け、鑛泉を汲み取りて諸方に販賣し、尙温泉浴場をも設けて専ら浴客の便に供し

たり。されど時機未だ熟せず、收支償はざるが爲に二十五年中會社を解散して、温泉場を閉鎖するの非運に遭遇せり。されどこゝの鑛泉に二種ありて、一を單に鑛泉と稱し、他を炭酸泉といふ。鑛泉は温浴に適し、炭酸泉は飲料水として最も効驗著るしく、別項に記したる如く、清野緒方等諸名醫の證明を得たれば、此水を汲取りて、飲料用に供すること宜けれど、有志の人々相謀りて『寶塚鑛泉』と稱し、廣く内地及び海外に輸出する事となりぬ。故に寶塚鑛泉の名は一時飲料水として世に知られ、別に温浴に適する鑛泉ある事の廣く世間に知れ渡らざるを遺憾に思ひ、有志者に於て更に組合

を設け、一端閉鎖したる温泉場を再び開場し、入浴事業を繼續する事にした。然るに去三十一年十一月の大雨に武庫川の水氾濫して浴場を流し浴室に掲げたる扁額、遠く海中に流れ、泉州濱寺に漂着するの惨状を呈したり。依て組合員一同協議を遂げ、翌三十二年の春更に新築に着手し、同年六月工事落成して開場するに至りぬ。爾來日に月に浴室増加して、住民また日を逐ふて繁殖し、旅館料亭の數十數軒の多きに及び、以て今日の隆盛を見るに至りしなり。

温泉の効能及炭酸泉

此温泉の効能に付ては、彼是と素人の贅辯を弄するまでも

なく去明治廿四年十月九日付にて、時の大阪衛生試験所長櫻井小平太氏の分析表ありて明白なり、其成蹟に據れば、此温泉は、食塩亞兒加里性の炭酸泉にして、反應は初め酸性を呈するも之を煮沸すれば著しく茶色を帯たる白濁を生じて亞兒加里性に變ず、而して其成分の量は

- 一格魯兒仕留謨 〇、七九九三
- 一格魯兒仕那篤留謨 一一、一二五二
- 一炭酸那篤留謨 〇、五二〇
- 一炭酸安謨紐謨 〇、〇〇三三
- 一炭酸加兒叟謨 一、〇〇〇九
- 一炭酸麻屈涅叟謨 〇、〇〇七六〇
- 一酸化鐵及礬土 〇、〇〇七五〇

一珪酸

一、三七六二

一炭酸枝離及半結合痕跡 硫酸同、磷酸同、沃度同、

貌魯謨同

以上の成分を含み居るが故に、本泉は浴用服用共に有効の
鑛泉にて、飲用すれば胃液の分泌を促し、食慾を起し腸の蠕
動を促し、大便の通じをよくする効能あり、又温泉にして入
浴する時は、皮膚を刺戟して血の循環をよくする効能あり
て、左の諸病を治す。

- 慢性難治の諸病 ● 咽喉頭加多兒 ● 胃腸病 ● 膀胱病 ●
- 子宮病 ● 胃潰瘍病 ● 黄胆病 ● 下腹充血病 ● 痔疾 ● 便
- 秘病 ● 膽石病 ● 貧血病 ● 月經不順症 ● 不妊性 ● 肋膜

炎 ● 腺病 ● 痛風病 ● 密尿病 ● 神経系病 ● 神経痛秘 ●
 肺病 ● 脊髄病 ● 運動及知覺麻痺 ● 筋肉痙攣症 ● 腎臟
 炎 ● 胃痙攣 ● 疝氣病 ● 癩麻質期
 又炭酸泉は、右の鑛泉と違ひ、炭酸を多量に含み居るを以て、
 飲用すれば胃の粘膜を刺戟して分泌を促し、消化機の働き
 を助くるが故に胃弱症の人、又は腸の機能鈍き人に效能あ
 り、尙其他神經麻痺に因る四肢運動の不全、膀胱の衰弱、神經
 の衰弱等種々の病症に特效ある事は前大阪醫學校長清野
 勇氏、醫伯緒方惟準氏の證明書に委しければ、こゝには畧し
 ぬ。尙こゝに特に注意すべき要件あり、それは普通の病者、入浴

後二三日にして身体に疲勞を覺え、病氣再發の氣味あるが如くに感ずる事あり、これ温泉の效驗顯れたるものなるが故に、少しも心配に及ばざるなり。因みに目下一晝夜に、鑛泉は五百五十石、炭酸泉は七十二石涌き出る由なり。

寶塚市街

寶塚の市街は伊子志の一部分にして、以前は全く人家なき所なりしが、寶塚温泉の開場以來これに附隨して諸人の家屋を建て戸數人口とも漸く増殖して止まず、武庫郡中有數の市街とはなりぬ。市中の主なる營業者を列擧すれば、旅宿業に分銅屋、泉山、寶樂家、丸正、友金、寶茶屋、寶山、たつみや及び

席貨につるや等あり、雜貨販賣店にこがねやと木村炭酸煎餅湯染、西村和洋酒、小間物、淺野炭酸羊羹、友金的場、荒物、小間物、洋酒、湯染、川万洋酒、湯染、水飴等の外、鳥肉を鬻げる鳥金等ありて、何れも商賣繁昌を極め、又た製造所に井上の織物工場を始め、鑛泉瓶詰所等あり、日々多數の職工を使用して、何れ業務の盛ならざるはなく、加之近頃醫師春日育造氏の病院を建設して春日病院と稱し、浴客の不時に供へ、且は土地高燥にして病痾療養に適切の地なるを以て、病者收容の爲特に盡力せらるるもの等、是等與りて更に大に土地の賑ひと添へしめたるものなり。

寶塚名勝地

寶塚の地勢後に山を負ひ前に川を扣へて高燥閑雅然も眺望佳絶にして、甞に來浴者の耳目を樂ましむるのみならず附近にまた名勝古址頗る多く以て浴間の徒然を慰するに足れり、探勝者來りて一浴を試み兼て勝地に遊ぶも一興なれば、其大約を記して來遊者の便に供しぬ。

丁子ヶ瀧 寶塚の町を離れて四丁ほど上へ行し處に、一條の瀑布ありて丁子ヶ瀧と云。近來こゝに藁葺家根の風流洒落なる茶店を設け來りて瀑布を見る者の便に供しぬ。こゝにも炭酸泉及鑛泉涌き出で、飲用若くは浴用に供す

る事を得るなり。又瀑布の傍に獅子巖と唱ふる奇巖突出して、其形牝獅子牡獅子の遊び戯るゝに似て頗る奇なり見返巖 丁子ヶ瀧と殆同所の縣道に巨巖横はり巖を切開きて道を設けたるかの如き處ありて、道の左右に小山の如き岩あり、道行く者驚きて其岩を見返らぬはなし、因て見返り岩の名ありといふ。岩の下方に小橋あり見返橋と名く、此邊武庫川の流れ急にして、景色最もよく夏時寶塚の浴客こゝに來りて遊ぶ者多し。

成寶梅林 寶塚の町より數丁南の山麓に、成寶の梅林といふがあり、一名高臺の梅林とも云ふ。花の頃には數百の梅

樹叢郁として清香を放ち、梢は空に知られぬ雪かと誤たる。雅人來りて花を見ん事を望まば、園主は悦んで扉を開き、一脚の床几一椀の溢茶を用意して歓迎すべしとなり

武庫川 鮎は武庫川の名物にして、濞刺瀬に躍れり之を捕るに網を用ふるも可なれど、釣は君子人の樂しみにて、孔子も釣して羅せずと云宜へり、左れば入浴中の徒然に鮎を釣り、自身調理して晚餐の膳に供ふるも面白からん。又夏中終日の苦熱漸く薄らぎ、日は西山に没りて、岸の柳に涼風のそよぐ頃、團扇片手に武庫磧に下立涼しき水の音を聞ながらの漫歩、人生の快事之に勝るものなかるべし

寶塚稻荷 温泉場と相對したる處に、稻荷の祠あり、近頃新に造營したるものよしにて、神体は伏見の稻荷より請うけて、勸請せり、例年の初午は勿論時々の祭典に太鼓の音賑しく、土地繁昌の守護神なるべし。

蓬萊橋 寶塚停車場と寶塚の間に架りし武庫川の橋を蓬萊橋といふ。寶塚有志者の醸金に成りしものにて、一切他の支出を仰がず、橋杭一本づゝ橋の中央に並列して、橋桁を支へしめたる構造の奇なる、他に類例を見ず、畢竟降雨の爲水嵩増したるとき、激流奔逸して柱を衝くが故に、二本づゝ並ぶる柱を一本づゝにして、水勢を避る爲の用心

なるべし。

寶塚停車場 寶塚と川を隔てり相對し寶塚より停車場迄
 は僅に二丁餘に過ず本驛は小濱村大字川面にありて里
 道驛前に通じ南は見佐に北は生瀬に至りて縣道に合す
 六甲山 搦尾寺 寶塚の後の山を十八丁登りし處に搦尾寺
 (眞言宗)といふ寺院あり本尊は十一面觀世音にして靈驗
 最も著明なりと云へり本山の緣起に據れば人皇十四代
 仲哀帝の先后大仲姫の皇子麿坂の公薨去の砌尊骸を六
 甲山に葬り搦尾寺は其御陵墓なる由に記しあれど確な
 らず按ずるに麿坂忍熊の二皇子神功皇后と戦ひて利あ

らず軍敗れて薨去ありしかば兄麿坂は六甲山に弟忍熊
 は中山に葬りしとの事なれど六甲山は古來屢鳴動して
 崩壞したれば山形變じて舊容を失ひ準つて皇子の御陵
 も埋没して所在を失ひしものなるべし其後人皇三十四
 代推古帝の御宇に上宮太子の御願にて六甲山に七觀音
 の建立ありて搦尾寺には十一面觀世音搦首寺には千手
 觀世音搦谷寺には正觀世音鷲林寺には馬頭觀世音神呪
 寺には如意輪觀世音平林寺には準泥觀世音金龍寺には
 不空絹索觀世音を安置せり然るに天正年間の兵火に諸
 堂宇悉く燒失し搦尾寺の十一面觀世音は何者か佛体を

盗み去りて、何處に行きたるか分らず、程經て河内國烏養村の大説和尚と云へる者の手にある事分り、和尚を尋ねて尊像を手に入れたる次第を糺したるに、初めは六甲山の兵火を免れて、河内國佐多村邊の一向宗の在家にありて尊像の手も足も損じ、淺ましき御姿なりしを大説和尚が請受け、自ら淨財を抛ちて修繕を加へ、烏養村の寺に安置せしよしを語りしが、頓て正徳三年五月九日再び塩尾寺に戻り、同寺の本尊に仰ぐ事となりぬ、毎年陰曆正月十日の夜村民擧つて此寺に參詣し、觀音の會式と稱して、松明を點し、簀を焚き、其前年に男子出生の家より白米一石

づゝを集め、夫を洗米にして境内一面に撒散すを以て儀式とす、俗に之を登宇登祭といふ、今も其古例廢らず、毎年執行せり。

塩尾寺茶所 寶塚の町を離れて、數丁上りし處に、塩尾寺の茶所ありて、こゝにも觀世音を安置す、參詣人の往來に足を休むる所なるべし。

逆瀬川 武庫川の流れ寶塚の前を過りて、南に下ること數丁、領家莊に支流ありて合するを逆瀬川といふ、川と云んよりは寧沙漠と云ふ方適當に似たり、川の全面沙を以て満され、山よりなだれ落る沙一日に千石に近し、依て千石

すりの名あり、すりはすり落るといふ意味なりとぞ。

高臺岩 寶塚より二十丁ほど上流の武庫川中、木本村に屬

する處に、高臺岩一名鮎瀧と稱する名勝あり、激水岩に碎

けて、水烟飛散し、白玉瀑布と化して、巖また巖に懸り、其奇

觀實に名狀すべからず、又其激流を衝て、溯らんとする無

數の鮎、激刺溪間に躍り、漁夫來りて羅を張り、上らんとし

て飛ぶ鮎を捕ふるもの、其數を知らず、高臺岩は面積二十

疊に餘る巨巖にして、岩の上に四方家の如きものを設け

漁し且食するの便に供せりとぞ。

米谷梅林 中山觀世音より數丁西、清荒神の南に米谷の梅

林といふがあり、勿論野梅にして庭園をなさずと雖も、數

百株の梅樹山の麓を繞り、香雪梢を覆ひて羅浮山に在る

かと疑はる。花候には、村娘野唄來りて店を設け、風人雅客

の便に供す、こゝより寶塚までは僅に數丁に過ぎず、中山

よりは人力車の便もありて、一遊を試むる事甚だ容易な

り。

蓬萊山清澄寺(清荒神) 此寺は河邊郡小濱村大字米谷に

ありて、本尊は大日如來を安置せり。境内別に清荒神の社

ありて、三寶荒神を祭れり。人王五十九代宇多帝の勅願に

依り、寛平七年當山を創造の際、舍利弗の昔の因縁と、高祖

大師の甲山鷲林寺に三寶荒神を祭りたる例に倣ひ、まづ此神を祭りたるに、光明赫奕として六臂威嚴の尊容、忽然西の谷に影向せり。依て其地に社壇を構へて安置したるに、長くも宇多帝より日本第一清大荒神の勅號を賜ひぬ。然るに、壽永の亂に清澄寺の堂宇兵燹に罹り、一抹の烟と化し去りたるを以て、建久元年、右大將頼朝再建したり。其後も清澄寺は數度兵火に罹りて移動したれど、荒神の社壇は依然として動かす數千年を経たる今日に至るまで舊地に鎮座せり。今より二百十年前、元祿八年の春、神前の土中より銀の函に入りたる紺紙金泥の經卷十一卷を掘

出し、寺の寶物として保存する處を見ても、創造久しき古刹なる事を察し得べきなり。尙聖德太子畫像、同太子の自筆聖觀世音の畫像、行基菩薩の自筆地藏菩薩の畫像、小野篁の筆、千手觀音の像、顏輝の畫、荒神の畫像、及木像(本覺大師作)等を寺寶として保存せり。境内廣濶にして、巒峯四方を圍み、社殿、拜殿、大日堂、方丈、書院、庫裡等あり。庭園は支那盧山の風景を摸擬せしものよしにて、飛泉岩頭に迸し、佛像樹間に屹立して、幽趣翫すべし。按ずるに、清澄寺は往古龍藏院と稱し、荒神とは別の處にありたるも、後に荒神の境内に移りたるものなりといふ。

山本牡丹園 山本は中山停車場を距る事僅に五丁餘の處
 にありて、全村園藝家を以て滿され、就中牡丹の栽培に名
 ある處にして、毎年花の頃には數反歩を畫りて牡丹畑と
 なし、其内に二三百種の牡丹を植えて公衆の縦覽に供し
 又望みの者には販賣せり。尙別に盆栽を展列し、廉價を以
 て賣却するが故に來觀者は競うて購求するを常とす。此
 村に往昔坂上善太夫といふ者ありて、接木の妙手なりし
 かば、豊臣太閤の知遇を得て、接木太夫の稱號を授與され
 たり。其舊址今も現存し、通名又右衛門事金岡喜藏の住宅
 是なり、されど喜藏は唯其舊址に住居するのみにて、接木

太夫とは何等の血縁なきよし、此家は勿論園藝家にて、善
 薇の栽培に名あり。

紫雲山中山寺 此寺は眞言宗にて、河邊郡長尾村大字中山
 にあり、本尊は十一面觀世音にて、用明帝の御宇聖德太子
 の建立のよしにて、仲哀帝の先妃大中姫及第二の皇子忍
 熊公を葬りたる靈場なり、最初は今奥の院にありしを、
 後に今の處に遷し、和州長谷寺の開山徳道上人が觀音の
 靈所三十三番を定めたる時、當山は第二十四番と定め
 たり、往昔は堂塔伽藍の造營美々しく、中山の山嶺に巍立
 し、僧坊八十に餘りて、法燈の光り熾んなりしが、天正年間

兵燹に罹りて、堂宇僧坊残りなく焼失したるを以て慶長八年に至り、豊臣秀頼再建を企て、僅に舊觀の一部を復したりといふ。其際片桐且元普請奉行としてこゝに臨み、今も且元手作の庭と云るが境内僧坊の内に現存せり。境内は一万八千坪餘にして、本堂には聖德太子前生の作と稱する十一面觀世音の尊像及び運慶の作に係る二尊を其左右に安置せり。其他に藥師堂、地藏堂、太子堂、羅漢堂、護摩堂、寶藏、骨堂、納經所、詠歌堂、鐘樓等ありて、山門より本堂までの左右に成就院、花藏院、總持院、寶藏院、觀音院の五宿坊あり、また境外に白鳥窟、夫婦石、馬蹄石、勅使川、美丈丸學問

所、大悲水、瓜形天神、惠日庵等の名所舊跡ありて、古松老杉其間に點々し鬱々蒼々たり、山門外には數個の旅宿料亭ありて、靈場順拜者の便に供せり。例年陽曆四月十五日より一週間法要を營み、又陰曆七月九日の夜は星下りと稱して老弱男女の參詣夥多しく、雜沓を極むるを常とす。こゝに温泉あり、中山温泉といふ、一時廢滅に屬したるも、近來また再興せしとかや。

近來多大の人數にて、宴會又は集會等を催すに此寶塚の地に於てするもの多きを見る。蓋し此故は、寶塚は地勢高燥にして、後に山を負ひ前に川を控へ、空氣清潔眺望佳絶なるの

みならず、各旅亭に於ても競ふて顧客の便利を圖るに意を用ひ、料理其他詭物等成るべく、丈け手を盡し、殊に食料品を撰び、一段周到にして、且代價も總て廉なるを旨とするより、自然客の意を迎ふる所となり、扱こそ多數の來遊者を見る次第なるが、試みに此頃寶塚に於ける宿泊料其他を示せば左の如し

並等	中等	上等	宿泊料	畫飯料	宴會	特別入浴料
金五拾錢	金六拾錢	金七拾錢	同	金參拾五錢	金五拾錢以上	金貳拾錢
同	同	同	同	金參拾錢	同上	金五錢
同	同	同	同	金貳拾五錢	同上	金參錢

寶塚里程(伊子志村里程標に據る)
 神戶之 六里二十四丁五十一間
 西宮標 二里十四丁十三間二步
 田宮 五里
 馬場 三里十一丁二十間七步
 瀨馬 二十丁十一間一步

藥劑師赤心館主谷始太郎鑑製



定價 ●半廻リ拾五錢 ●壹廻リ廿五錢
 ●貳廻半五拾錢

發賣元 大阪市東區伏見町堺筋角 谷 回春堂

全國到る處の藥店に販賣す取次なき地は本舖へ直接御注文を請ふ

効能

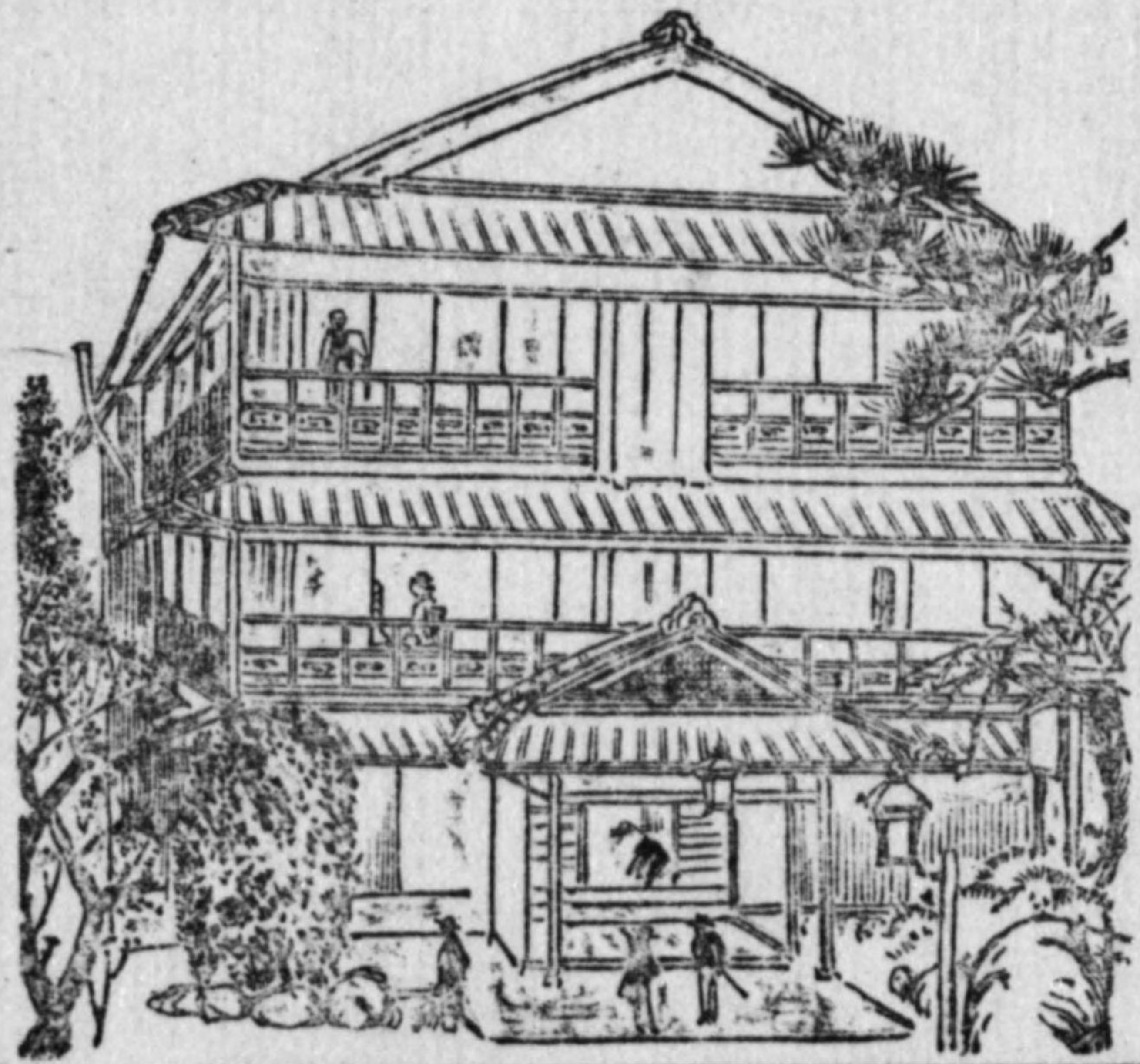
- 子宮の痛 ●血の道
- 月經不順 ●下腹腰
- 手足痙攣痛 ●鳩尾苦
- 敷差し込痛 ●子宮冷
- え込痛 ●頭痛 ●眩暈
- しら血なが血 ●産
- 後の衰へ ●癩癩 ●神
- 經病(忿怒悲哀短氣
- 等なり) ●氣の鬱ぎ其
- 他子宮より起る諸症
- に特效あり

御旅館

寶塚は地勢高燥にして後
 に山を帯び前に川を控へ
 て眺望佳絶夏時の御避暑
 には勿論四時共御保養に
 最も適切の地に御座候間
 御入浴若くは御來遊の際
 には是非弊館に御立寄下
 され度精々廉價に輕便懇
 切を主として御歡迎可申
 上候

寶塚温泉 泉山 白敬

追て御宴會等多數御來會の節は
 特に御便宜を御圖り御料理其他
 とも精々相勉め御一人前代五十
 錢以上何程にても御注文に應ず
 べく候間御申合せされ賑々數御來
 遊奉待上候



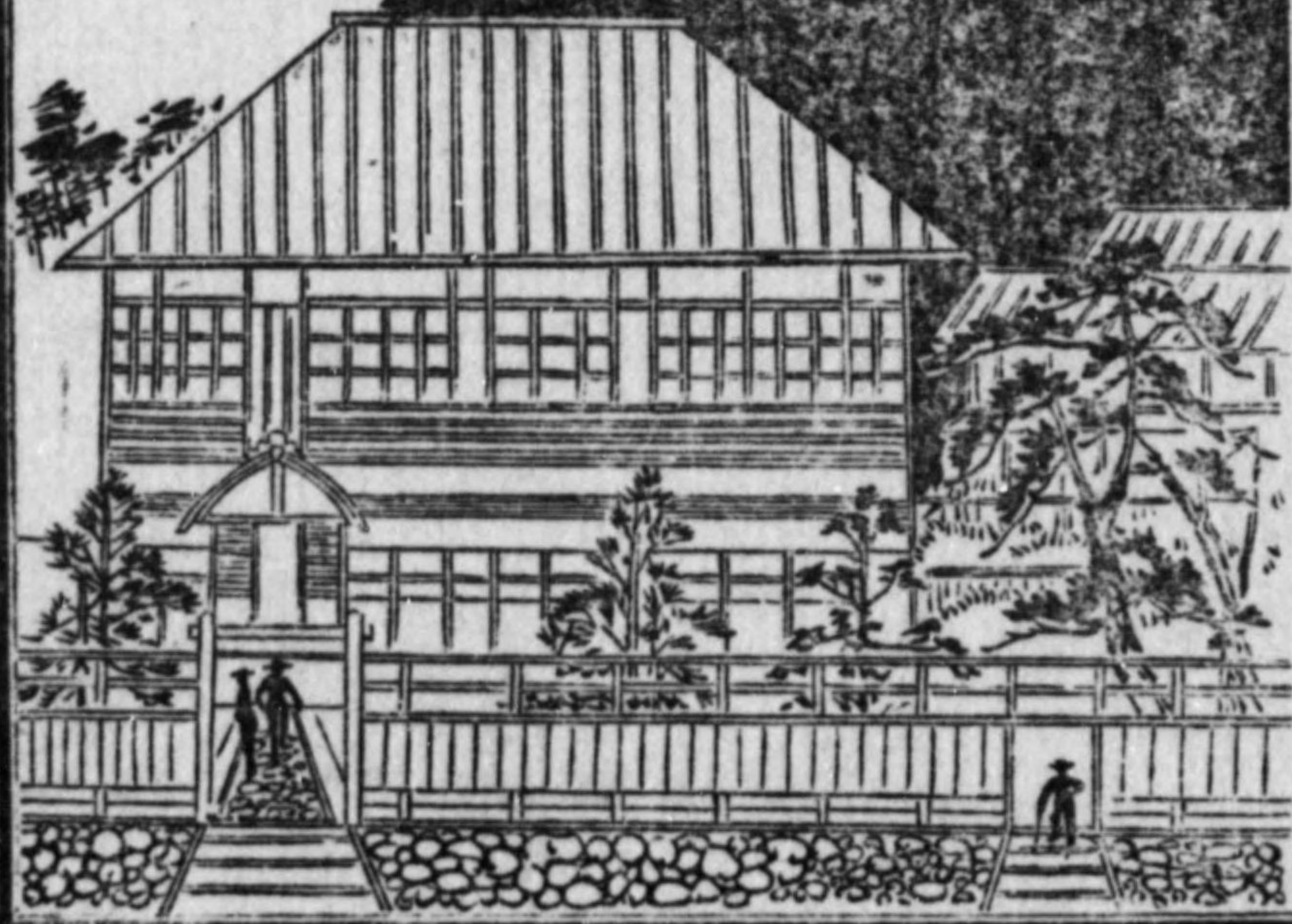
今や海ノ内外ヲ間ハズ人智之
 進歩スルニ從ヒ衛生ノ最モ重
 ズメキチ知リ春夏秋冬ニ關セ
 ズ温泉或ハ海ホニ浴シ又ハ旅
 行轉地等各自身體健康ニ適ス
 ルノ地ヲ選ミ保養スルニ至レ
 り豈ニ國家之美事ナラザラン
 ヤ攝洲寶塚ノ温泉場タルヤ土
 地高燥ニシテ空氣新鮮眺望佳
 絶之レニ加ルニ自然運動ニ適
 スルノ地アリテ四季ノ病ノ最
 良地ナリ然レドモ只一ノ療所
 院ノ設ケ無キハ遺憾トスル所
 ナリ因テ今回有志者相謀リテ
 轉地療養ニ適スル一ノ病院ヲ
 新築シ輕便ニシテ病人ノ主ト
 シ衛生ヲ重ズル人士ノ請ヒニ
 應セントス

明治三十六年七月

寶塚病院

院長 春日育造

入院料左之通り相定ム
 特別 金一圓五十錢
 一等 金一圓
 二等 金六十錢



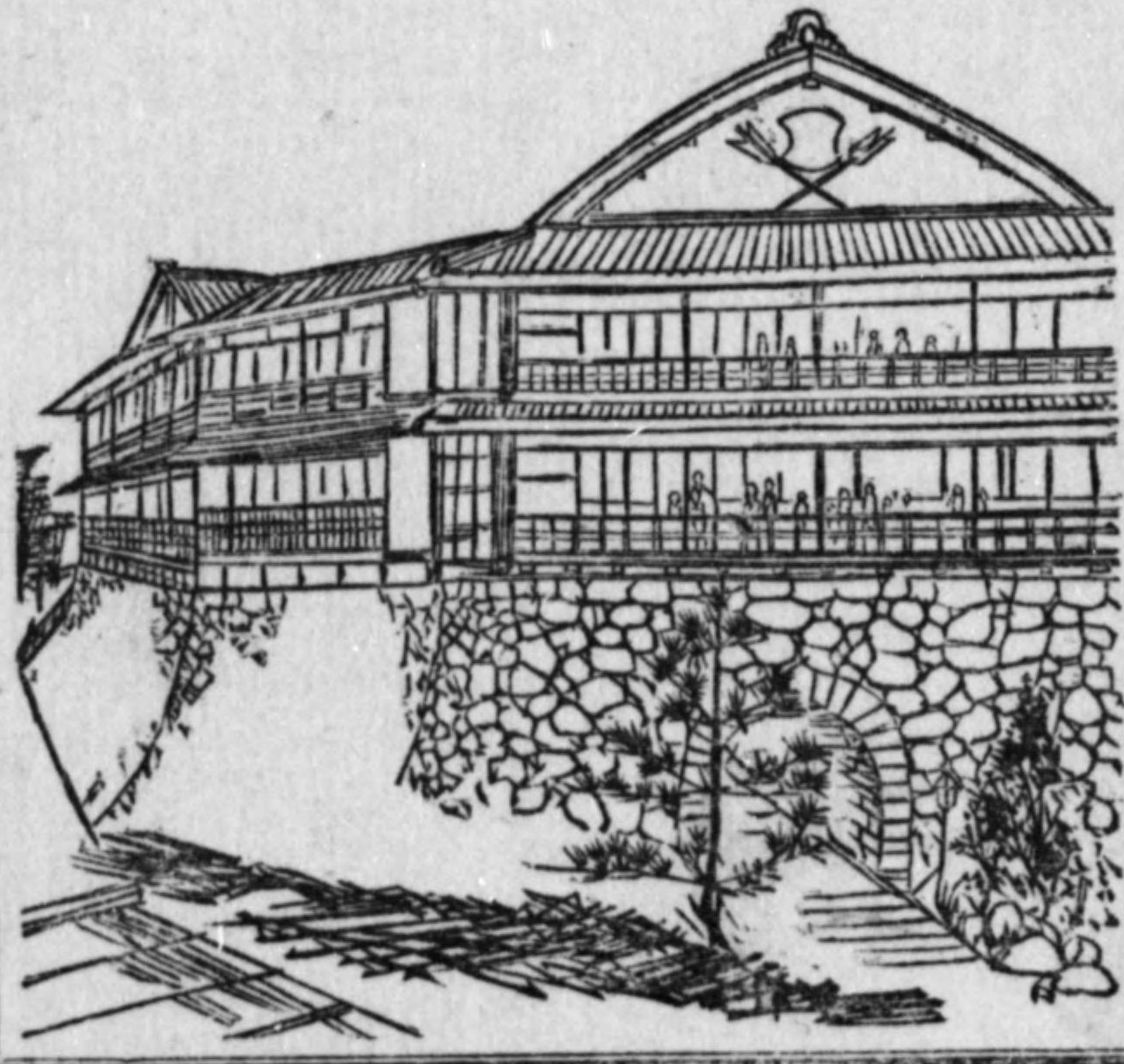


裏面を見よ

弊館儀寶塚温泉創業の際
 より江湖諸君の御愛顧を
 蒙り日に増し繁昌致し候
 段難有御禮厚申上候就て
 は爾後一層勉強仕御宿泊
 は勿論御料理向等も精々
 廉價に輕便を主として營
 業仕候間何卒當所へ御來
 遊の諸君は是非弊館に御
 立寄下され倍舊御愛顧御
 引立の程偏に奉願上候

宝塚温泉旅館
ふんどうや

尙々弊館は多数御來集の御宴會
 等に對し努めて御便利を相圖り
 御料理等精選の上御一人前金五
 十錢以上盛んに御注文に應ずべ
 く候間併せて御引立の程奉願上
 候以上





此商標は何に於て御覽

醸造元 攝津灘御影町 泉仙介

清酒泉正宗
第五回内國
勸業博覽會
壹等賞牌受領



賣捌元 大阪市東區橫堀五丁目

藤井德藏
電話東千八百拾九番

第五回國內勸業博覽會
名譽銀牌受領



紫野織物會社

二五八二

丸重子

あいの志ゆす

あひ袖半あり地

本品は全
國到處
の呉服店
に販賣せ
り

兩替商

● 各公債證券
● 諸株券
● 古金銀貨幣

右特別營業仕候間多少不限御用
向本布上候

大阪市西區河津屋中通字目
電話 四百七十七番
高木又次郎

丸藤藤
丸藤藤藤藤藤藤藤藤藤

大阪順慶町心齋橋東
深田松之助商店
電話一八三七

阪鶴線停車場所在地

寶塚以南(中山驛を除く)

池田 能勢郡中隨一の町にて、町數十六、戸數千五百、人口七千ほごあり、池田區裁判所、池田警察署、豊能郡役所、池田町役場、池田郵便電信局等ありて、郡の施政機關大概備り、又町内に吳服穴織の兩神社、五月山、大廣寺等の名勝あり、こゝより箕面公園へは五十餘丁、木部の牡丹園へは十六丁餘、能勢妙見へは三里三十丁、共に道路平坦にて馬車、人力車の便あり。

伊丹 東西四丁、南北十二丁餘、戸數千三百、人口六千五百餘

ありて、其繁昌池田町に劣らず、地勢高燥にして酒造家軒を並べ、年々醸造の石數灘五郷に亞ぎ、伊丹の釀酒と云へば、全國至る處知らざる者なく、土地の繁昌は全く造酒の好評に由れり、近傍に猪名野神社、辻の碑、金岡の清水、鑄物師、天神社、猪名の笹原等の名勝古蹟あり。

塚口 こゝは河邊郡立花村の大字にて、伊丹と尼ヶ崎の間にあり、昆陽の昆陽寺までは三十丁、此寺に行基菩薩の墓ありて、開山塔といふ。本尊は藥師如來にて、行基の草創したる靈場なり、又園田村の白井天王まで二十餘丁、俗に之を齒の神と稱して參詣する者多し。

神崎 官設鐵道の停車場こゝにありて、阪鶴線の連絡地なり、此處より大阪まで二里停車場のある處は河邊郡小田村大字長州といふ處なり、傾城塚の舊蹟は神崎に、久々知妙見堂は久々知にあり、久々知村の廣濟寺に近松門左衛門の墓ありて世に名高し。

尼ヶ崎 こゝは兵庫縣河邊郡中の最も繁華なる處にて、戶數約四千餘、人口一万七千餘あり、官線神崎驛を南西に距る事二十丁餘、大阪と神戸を東西に扣へ、交通の便利よく、尙大阪灣後に廣がり、舟楫の便ありて、商工業日を逐ふて、勃興の形勢あり、町内に華族櫻井家の舊城ありしも、城樓

臺閣盡く破壊して、址なきに至りぬ。

寶塚以北

生瀬 こゝは有馬郡蘆瀬村の大字にて、停車場より三丁ほど離れたる處に温泉場あり、生瀬鑛泉といふ、往古より附近の村民汲取りて浴用に供せしを、明治二十九年浴室を設けて來浴者を迎ふる事となりぬ、屏風巖は山口村大字船坂より生瀬までの間にありて、斷岸數丈、相雙びて屏風を繞らすに似たり、昔弘法大師此岩に六字の名號を記したるよしにて、今も雨後濕潤を帶ぶる際には幽に讀得らるべしとなり、尙生瀬驛の近傍に淨橋寺といふ淨土宗の

寺ありて、後嵯峨帝の勅願所なり、境内に開山善慧上人、熊谷蓮上坊、宇都宮入道の墓あり、寺寶には後嵯峨帝の繪旨、後水尾帝の繪旨、並びに釋迦名號、孝明帝の御遺品、染付焼の御花器等あり。

武田尾　こゝにも鑛泉ありて、巖石の罅隙より湧出で、俗に之を銀瀧水と云ひ、寛永の昔、武田尾直藏と云る者、薪を樵りに行きて、發見せりといふ、地勢溪流に沿ひ、天狗嶽の勝景と相對して、巒翠浴室を擁し、奇樹怪石、其間に散點して、恰も一幅の畫圖の如く、實に天然の活畫なり。溝瀧は停車場を距る事十五丁餘の處にあり、奇巖怪石河中に蟠窟し

て急湍奔流之に激し、銀碎け雪飛ぶの奇觀を呈せり、然も其下流は水勢緩慢にして、碧潭藍の如し。

道場　こゝの停車場は有馬郡道場村大字生野にあり、此處より有馬へ行く道ありて、里程三里、此間に電氣鐵道布設の計畫あり、已に其筋の起業認可を得たれば、遠からず着手するに至るべし。近傍の名勝は、鑄射寺の觀音、百疊巖、百間瀧等なり。

三田　停車場は有馬郡三輪村字高杉にありて、舊九鬼藩の城下なり。地勢は播丹街道の樞要にありて、東西十九丁、南北二十四丁、戸數約八百、人口三千餘あり、有馬へは二里半

にて人力車の便あり、附近に花山院御廟、香下寺、塩田八幡
社等あり、三田城は維新後破壊されて小學校の敷地とな
れり。

廣野 有馬郡貴志村の大字にて附近に永澤寺、青林寺、末の
窟等あり。

相野 同郡藍村の大字相野にありて、美の田瀧、金ヶ淵は共
に藍村の大川瀬にあり、停車場よりは二十五丁にて人力
車の便あり、こゝは播州加古川の上流にて瀑布の落口高
からずと雖も水聲清く心耳を澄し、且風景に富みて、鯉魚
香魚等を多く産す。

藍本 こゝは縣道の内にあり、南は四辻、北は古市に至る街
道にて立杭焼の密あり、播鉢、徳利、樋、壺等の陶器を産す。

古市 丹波國多紀郡古市村に在りて、附近南矢代に高仙寺
市原に城山、稻荷古市に妙見山、小野原に和田寺、當野に阿
彌陀寺、平木に清水寺の名刹あり、又古市の舟瀬川は蟹に
名ある處なり。

篠山 多紀郡味間村大字大澤にありて、篠山の城下までは
一里あり、篠山町は青山家の舊城下にて、町數十三、戸數千
二百、人口六千あり、王地山公園は澤田にあり、其他黒岡の
春日神社、魚屋町の誓願寺、西岡屋の諏訪神社、眞南條の龍

藏寺、彌十郎が嶽の昆沙門の窟、福井の櫛岩窓神社、宮前の波々、伯部神社上篠見村の辨天の瀧、後川新田の籠坊温泉、本庄の洞光寺等何れも其附近にありて有名なり。

大山 ころも同じく味間村大字西古佐にありて、大山城の址は大山村大字大山下にあり、昔長澤義遠此處に城を構へ、明智光秀の爲に滅されし處なり、其他味間に文保寺、大

山下に大瀧あり。

下瀧 氷上郡上久下大字下瀧にあり、附近太田に惠日寺、白

鹿神社あり。

谷川 同郡久下村大字池谷にあり、附近谷川に常勝寺あり

柏原 氷上郡柏原町字松原にあり、柏原に柏原町、東奥、南多

田、上小倉、下小倉、見長、北中、小南、室谷といふ八個の大字あり、戸數六百、人口三千の小市街なれど、織田家の舊城下に

て繁昌の土地なり、附近には柏原八幡町に八幡神社、鐘ヶ

阪、隧道は氷上多紀の郡界にあり、鬼の架橋も同所にあり、長さ三間、幅一間餘の天然の石梁巖に架りて最も奇觀を

呈せり

石生 氷上郡石生村大字石負にありて、附近長尾に船城神社、檜倉に高源寺、香良に岩瀧寺の不動、香良の瀧、小倉に佐治神社、御油に山圓通寺等の名刹あり。

黒井 氷上郡黒井村大字黒井にありて、附近名勝は猪の山城、兵主神社、興禪寺、朝日天神等なり。

市島 氷上郡吉見山大字上田にありて、附近名勝は多利野の神池寺、市島の蛭子神社、梶原の丹波富士等なり。

竹田 福知山より一里半の處、天田郡竹田村大字竹田にありて、六人部の多保市に善光寺あり。

福知山 天田郡曾我井村(福知山の南端)にありて、舞鶴へ九里餘、宮津へ十二里餘、綾部へ三里餘あり、福知山町は丹波第一の市街にて、和泉式部の歌に『丹波なる吹風の山のみち葉は、散らぬ先より散るかどぞ思ふ』と詠じたるも此

處にて福知川東北に流れて交通の便を助け、戸數千五百人口八千餘あり、舊朽木家の城下にて、城は城山にあり、附近名勝は曾我井村字堀の一宮神社、今安の玉姫神社、福知山廣小路の御靈神社、同菱中町の常照寺、天田郡中筋村の観音大呂の天寧寺、高倉の高倉神社、天田内の元伊勢等、其他旅團司令部、天田郡役所、福知山區裁判所、福知山警察署等ありて、頗る繁昌せり。

寶塚温泉案内 終

69
268

第五回國內勸業博覽會

壹等賞牌受領

清酒



釀造元 伊丹 小西本店

特別大販賣 寶塚 西村商店

明治卅六年八月十五日印
明治卅六年八月二十日發行

正價 金拾貳錢

不許
複製

寶塚溫泉案內

編者 加藤紫芳

大阪市南區鹽町四丁目二百一十二番屋敷

發行者 矢嶋嘉平次

大阪市南區鹽町四丁目百五十一番屋敷

印刷者 礪波伊三郎

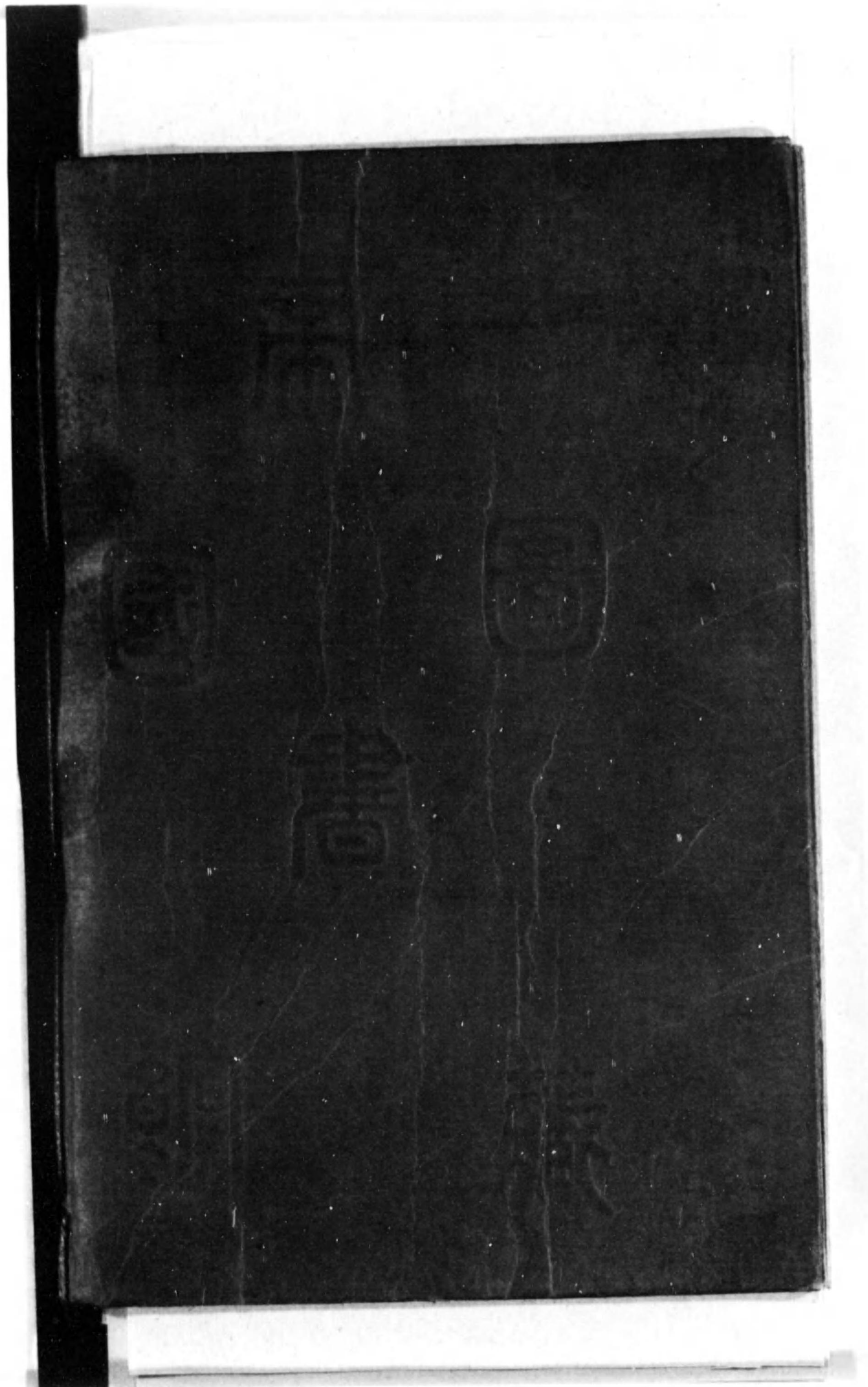
大阪市四區江戸堀南邊壹丁目二十一番地

寫真製版所 岡村文錦堂

大阪市心齋橋鹽町北五入

出版元 矢嶋誠進堂書店

67
268



025523-000-5

67-268

宝塚温泉案内

加藤 柴芳/編

M36

ADC-3011



67
268

宝塚温泉案内